

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0570112342		
法人名	有限会社 ケアランドあきた		
事業所名	グループホームうららか		
所在地	010-1414 秋田市御所野元町四丁目2-3 (電話) 018-889-8211		
評価機関名	財団法人 秋田県長寿社会振興財団		
所在地	秋田市御所野下堤5-1-1		
訪問調査日	平成21年3月12日	評価確定日	平成21年4月9日

【情報提供票より】 (21年 2 月 23 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 4月 15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤6人, 非常勤4人, 常勤換算8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,500 円

(4) 利用者の概要 (2月 23日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名
要介護3	3 名	要介護4	
要介護5		要支援2	
年齢	平均 82 歳	最低 78 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	とおる内科医院 秋田赤十字病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの家庭的な外観は町並みに溶け込んでおり、職員・利用者は、地域行事への参加や住宅街の散歩などを通して、地域住民との交流を図っている。設立からの4年間、運営者は良質な介護を提供するために、様々な場面で試行錯誤を繰り返しながら前進してきている。「笑顔がユニフォーム」をモットーとし、職員の気持ちが一つになっている事が、利用者の穏やかな表情や、ゆったりした雰囲気にも現れており、今後、更に期待できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 金銭管理においては、利用者の力量に応じた支援がされている。災害時の対応については、マニュアルの作成、ミーティングの開催、避難訓練がされている。消毒薬は、利用者の目に触れない場所に保管し、管理されている。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 運営者は、自己評価に前向きに取り組み、今後、検討を重ねていく必要のある事項をしっかりと捉える事ができている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、主に災害の対応、連携について話し合われていて、昨年は、消防署の指導の下、2回の訓練を行っている。訓練後に出された課題については、更に次の会議で話し合い検討している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者の状況に変化が生じた場合は、速やかに家族に連絡して意見を聞き、一緒に対応方法を考えている。 家族の不安に配慮し、利用者毎に、それぞれの暮らしぶりを細やかに記した手紙を月1回郵送し、お知らせしている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 運営者は、積極的に地域の自治会に出席し、交流を深める努力をしている。利用者も職員と共に地域の行事に参加し、地域の方と楽しく過ごすことで良い繋がりができてきている。

2. 評価報告書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ゆったりとした生活の中に笑いもあり、利用者一人ひとりの気持ちに沿ったケアの実践を目指し、理念を作り上げている。 地域の方との交流が図れる支援も心がけ、継続している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者、職員は理念を確かめ合い共有し、日々のケアの実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者は、自治会に参加し、活動している。利用者も、地域のかまくら祭りの行事などに参加し、交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・職員は、前回の評価で出された改善点を、検討した上で改善し、前向きにケアサービスに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実践しているサービスの改善点などについて話し合いを行い、出されたメンバーからの意見を活かし、質の向上に努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者には、適宜、事業所の運営状態・現場の実情を報告している。		問題解決に向けた協議の機会が増えることで、更なるサービスの向上が図られるよう期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、利用者一人ひとりの個別の状況を、職員自筆のお便りで詳細に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を玄関に設置している他、家族の面会時には、意見や苦情を話しやすい雰囲気作りをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の都合による離職は数回あったが、サービスの質の低下を防ぐ努力をし、利用者へのダメージを最小限に抑えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の研修計画を立て、受講できるスケジュールを組み、育成に努めている。事業所内研修も、職員で講師を持ち回りする体制を整え、実践している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームの職員と、相互に実習し合うことで、良い研鑽の機会を作り上げている。運営者は、交流会に積極的に参加し、情報交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	職員は、利用者がサービスを利用するまでに、何回か自宅を訪問したり、入居予定者が体験も兼ねて家族と来所する等、利用者・家族に安心感を持たれる関係作りに努めている。家族の意見を聞き、利用者が自然に馴染んでいける工夫を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの暮らし方を尊重し、日々を共に過ごすことで、互いに支え合っているという実感が持てる関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の数回の事前訪問や、体験を兼ねた家族との来所等により、今までの暮らし方や、これからの希望を聞き、把握している。入居後も、毎日の生活の会話の中から、本人の意向をくみ取っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族から出された過ごし方の希望について、職員で話し合い、その希望に沿った介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間を決め定期的に見直しをしている他、状態が変化した時には、ミーティングを開き、現状に合った新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期往診以外の受診は、家族が対応しているが、家族が対応できない場合や緊急時には、柔軟に対応している。また、一人ひとり外出支援の要望にも、臨機応変に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族から同意と納得が得られた、かかりつけ医・かかりつけ歯科医の往診が定期的であり、治療・指導を受けている。 また、希望する医師を受診する場合の支援体制も整っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現段階では、利用者の経口摂取が不可能と判断された時点で、家族・医師を含めたチーム全体で話し合い、希望に沿った退居先への支援を行っている。	○	看護師が配置され、医療機関との連携も進んできている。重度化した場合の対応について、更に検討を重ね、取り組まれるよう期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティング時には、プライバシー確保の重要性について話し合い、全職員に伝達している。利用者のプライドに配慮した、言葉かけや対応がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の都合に合わせることなく、一人ひとりの生活のリズムを把握し、希望を大切にしている。例えば「1日何もせずゆっくりしたい。」という希望があれば、見守りながら、ゆっくり過せるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と写真入のメニューを見ながら希望を聞き、職員が交代で半月毎の献立を作成している。また、利用者と一緒に調理したり、色合いが足りなかった場合は、臨機応変に一品追加する等している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	入浴前の健康状態は必ず確認し、入浴の可否の判断をしている。週3回の入浴日を決めているが、利用者の状態・希望に合わせ、変更には柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	絵を描くこと、畑仕事、家事など、一人ひとりに合った楽しみごとや役割を活かして、張り合いのある生活が継続できる支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外食や散歩は、希望に合わせて出掛けている他、職員から声をかけ、少し遠い公園までドライブをしたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中は、玄関、居間、エレベーターに鍵をかけず、開放感のある暮らしを支援している。利用者が外出した時は、安全に配慮し付き添っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署員の立ち会いの下、災害を想定した訓練を実施している。訓練後に出された課題や連携方法について、消防や地域の方と共に話し合いを重ねている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、栄養バランスがとれていて、一人ひとりの食事量、水分量の把握もできている。状態に応じ、きざみ食や軟菜、お粥を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、清掃が行き届き衛生的であり、居間の大きな窓から見える景色で、季節の移ろいを感じとることができる。テレビの前では、ゆったりしたソファに座り、くつろぐことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は一人ひとりの自由な希望を取り入れた、居心地の良い部屋になっている。以前からの好みのものを飾っている入居者もいる。		

※ は、重点項目。